

ふたばっ子とともに

R6. 6. 13

令和6年度の1学期もあっという間に6月。中間点を過ぎて、後半に入りました。これから迎える「梅雨」や「暑さ」と向き合いながら、教育活動の充実を目指す1か月あまりとなります。

さて、5月25日(土)には、令和6年度の「運動会」を行いました。子供たちは、準備・練習から当日まで素晴らしい「輝き」を放ち続けました。

閉会式では、その頑張りを認める言葉かけをしようと考えていたのですが、朝から半日、集中して取り組んできた子供たちのことを考えて、内容をカットして短めに話をしました。

でも、「どこかで運動会での子供たちの頑張りを、子供たち自身だけでなく家庭や地域の皆様にも伝えたい」と考えていましたので、今回は、閉会式で話そうと考えた「ふたばっ子の輝き～運動会編～」をお伝えします。

ふたばっ子の輝き～運動会編～

閉会式で話そうと考えた内容は、次の通りです。

運動会、楽しかったですか。どの学年のみなさんも、とてもよく頑張りましたね。

5、6年生は、今日のために、企画・準備から力を合わせて一生懸命、取り組んできました。そして、今日の競技や演技では、さすが高学年らしい堂々とした姿、きびきびとした動きを会場の人々に見せていました。また、それぞれの係の仕事を張り切ってこなす姿も立派でした。きっと、下級生は「やっぱり5、6年生はカッコいいな。素敵だな。」と改めて感じたと思います。



3、4年生は、自分たちの思いを集めたダンスをノリノリで踊ったり、「やりたいこと」を出し合って考え、作り上げた障害物リレーに一生懸命取り組んだりして、とても素敵でした。4年生は、決勝審判の係を務めて5、6年生の競技を支えていました。学校のために働くリーダーに一步近づきましたね。



1、2年生も、笑顔いっぱいダンスをして、みんながかっこいい「ふたばレンジャー」になりました。みんなが大好きな5、6年生のすてきなお兄さんやお姉さんに少しだけ近づけましたね。また、力いっぱい徒競走や紅白で玉入れをして、みんなが運動会を楽しんでいる姿はキラキラと輝いていました。



そして、「なかよしグループ」での競技。上級生が下級生のことを大切に思う心や、下級生が上級生のことを尊敬する気持ちが、どのグループにも感じられました。グループの仲間を応援する声があちらこちらから聞こえて「ふたばっ子」の温かさや優しさがあふれた「なわとびリレー」でした。



スローガンの通り、どの場面にも「チームワーク」が感じられ、ともに運動会を楽しんでいる気持ちが伝わってきました。また、みなさんの素敵な笑顔が最後まで、運動場いっぱいにあふれていて、とても嬉しかったです。

そんなみなさんのがんばりを、先生方も、家族や地域の方々も、みんなで「笑顔」で見守ることができました。今日、家に帰ったら、おうちの方に、がんばったことや楽しかったことを話してください。

結びになりますが、地域の皆様、保護者の皆様、お暑い中、子供たちのために温かな御声援をお送りいただきました。高いところからではございますが、御礼申し上げます。ありがとうございました。

暑い中、とてもよくがんばりました。みなさんのいろいろな思いが集まって、一人ひとりの輝きがあふれる「運動会」…最高でした。

令和6年度も、子供たちの動きや姿だけを追ったら、コロナ禍前と変わらない「運動会」に見えたのではないかと思います。

でも…

- ・「運動会」という行事名は、6年生の子供たちが理由を付けて考えました。（来年度の6年生は、いろいろと考えてまた違う行事名にするかもしれません）
- ・「運動会」の全校スローガンを決める学級やわかばでの話し合いの時、学級や学年の目標となるスローガンも併せて話し合い、それぞれの学級ごとに垂れ幕を作成して掲示しました。



- ・各学年の種目は、子供たちの意見を募り、担任の先生方と一緒に決めました。
- ・「親子種目をやりませんか。」というPTA役員の方からの提案を受けて、5、6年生の子供たちが話し合いました。そして、①全学年の行いたい種目数を確保したい ②日程上、競技時間を生み出すのが難しい という2つの理由から「本年度は親子種目を行わない」という結論に至りました。（来年度も同様の提案があれば、子供たちが話し合って決めていく形になります。）
- ・仲良しグループで行った「なわとびリレー」は、昨年度よりも「グループの様子」と「一人一人の姿」の両方がよく見える種目になっていました。

というように、今年度の「運動会」でも、双葉小としての新たな取組がたくさんありました。どれも子供たちが、「運動会」を「自分たちの行事」にするための活動です。

子供たちは、準備や練習の段階ではなかなかうまくできなくて、何度、壁にぶつかっても、あきらめたり、へこたれたりすることなく、最後まで生き生きと活動を積み重ねて「自分たちの『運動会』」を創り上げました。それは、この行事が「与えられた」「やらされた」ものではなく、自身の「これがしたい」「こうしたい」という願いや思いに支えられて、向き合うことのできた行事だったからだと考えています。

子供たちがここで得た自信は、今後の教科学習や行事などに取り組んでいく上での、やる気やアイデアなど様々な力につながっていくことと思います。

これからのふたばっ子の「輝き」が楽しみです。